

\*\*\*\*\*  
開講科目名：刑事法研究（B）（2単位）  
開設年次：1年 2年  
開設学部：法学研究科修士課程法学専攻  
担当者：清水 裕樹  
\*\*\*\*\*

#### 《授業の概要》

##### 【授業の目標】

「日本の犯罪は減少し続けている」と主張するテキストを批判的に読むことを通じて、犯罪という社会問題に対してどのように立ち向かうことができるかを考える。  
この授業を通じて獲得することが期待される能力は以下のとおりである。

- (1) 日本の犯罪の現状に関する理解を得る。
- (2) 『犯罪白書』等に掲載されている統計データの見方を身につける。
- (3) 犯罪に対して刑罰以外にどのような手段で立ち向かえるかということのアイディアを提示できる。

##### 【授業の概要】

現代日本の犯罪状況と、犯罪予防に関する対策について、テキストを読みながら考える授業を行う。

本授業は、いわゆる講義形式ではなく、履修者による報告を求めるものである。第2回目からの授業では、下記テキストを使用するので、履修を希望する者は必ずそれまでに購入すること。

履修者は、テキストの内容を読み込み、特に重要と思われる部分についてまとめるとともに、自らの問題関心に従って様々な情報源にあたり、レジュメを準備した上で、報告に臨むことが求められる。

現在考えている授業進行予定は、下記の通りである。

- 第1回 犯罪現象の認識と刑事政策
- 第2回 犯罪現象をどう認識するか
- 第3回 警察統計から見えるものと見えないもの
- 第4回 現代日本の犯罪の「いま」
- 第5回 『犯罪白書』の作られ方
- 第6回 『犯罪白書』の受け入れられ方
- 第7回 「体感治安」と「犯罪不安」
- 第8回 防犯対策の意味
- 第9回 なぜ厳罰化が語られるのか
- 第10回 刑罰と犯罪予防
- 第11回 社会政策としての刑事政策
- 第12回 刑務所と精神病院
- 第13回 障害と犯罪
- 第14回 困っているのは誰か
- 第15回 犯罪と犯罪者に対して社会は何をできるか

##### 【評価方法】

報告（レジュメ・口頭での報告・質疑への対応）70%

授業参加者としての姿勢（授業参加の積極性・報告を聴く態度・質疑の内容や回数）30%

#### 《テキスト》

荻上チキ・浜井浩一『新・犯罪論「犯罪減少社会」でこれからすべきこと』現代人文社2015年

#### 《参考書》

法務省法務総合研究所編『平成30年版 犯罪白書』昭和情報プロセス2018年

外山ひとみ『All Color ニッポンの刑務所30』光文社2013年

山本譲司『累犯障害者』新潮文庫2009年

浜井浩一『罪を犯した人を排除しないイタリアの挑戦』現代人文社2013年  
フランコ・バザーリア『バザーリア講演録 自由こそ治療だ!』岩波書店2017年